

## 参考文献

### [省エネルギー基準 技術解説書]

- 1) 国土交通省国土技術政策総合研究所、独立行政法人建築研究所監修：平成 25 年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説（I 非住宅建築物）、2013 年 5 月

### [研究論文]

- 1) 宮田征門（建築研究所）、吉田治典（岡山理科大学）、澤地孝男（建築研究所）、桑沢保夫（建築研究所）：個別分散型空調システムの運用段階における実性能と JIS 試験法による性能の比較、日本建築学会大会学術講演梗概集、p1265-1266、2011 年 8 月
- 2) 今村俊紀（首都大大学院）、永田明寛（首都大大学院）、長井達夫（東京理科大学）、川瀬貴晴（千葉大学）、宮田征門（建築研究所）、日本建築学会大会学術講演梗概集、p485-486、2011 年 8 月
- 3) 伊藤聡美（千葉大）、鄭新源（千葉大）、川瀬貴晴（千葉大）、永田明寛（首都大学東京）、長井達夫（東京理科大学）、宮田征門（建築研究所）、日本建築学会大会学術講演梗概集、p487-488、2011 年 8 月
- 4) 石川和成（森村設計）、柳原隆司（東京大学）、高草智（日本ファシリティ、ソリューション）、宮田征門（建築研究所）、上谷勝洋（東洋熱工業）、市川徹（東京ガス）：熱源システムの入出力特性データの収集分析、（第 1 報）吸収冷温水発生機データの報告、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p337-380、2011 年 9 月
- 5) 上谷勝洋（東洋熱工業）、柳原隆司（東京大学）、高草智（日本ファシリティ、ソリューション）、宮田征門（建築研究所）、石川和成（森村設計）、市川徹（東京ガス）：熱源システムの入出力特性データの収集分析、（第 2 報）電気駆動式熱源データの報告、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p381-384、2011 年 9 月
- 6) 射場本忠彦（東京電機大学）、坂本雄三（東京大学大学院）、柳原隆司（東京大学大学院）、吉田治典（岡山理科大学）、井上隆（東京理科大学）、川瀬貴晴（千葉大学）、澤地孝男（建築研究所）、桑沢保夫（建築研究所）、宮田征門（建築研究所）、足永靖信（国土技術政策総合研究所）：新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、（その 2）調査研究の全体概要、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2401-2404、2011 年 9 月
- 7) 石川和成（森村設計）、柳原隆司（東京大学）、上谷勝洋（東洋熱工業）、宮田征門（建築研究所）、高草智（日本ファシリティ、ソリューション）、平岡雅哉（鹿島建設）、市川徹（東京ガス）：新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、（その 3）中央熱源方式の空調熱源におけるエネルギー効率の実態、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2405-2408、2011 年 9 月
- 8) 吉田治典（岡山理科大学）、宮田征門（建築研究所）、澤地孝男（建築研究所）、桑沢保夫（建築研究所）：新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、（その 4）個別分散型空調システムの入出力特性に関する実態調査、

- 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2409-2412、2011年9月
- 9) 上野嘉夫(ダイキン工業)、宮田征門(建築研究所)、辻忠男(ダイキン工業)、松瀬達也(ダイキン工業)、澤地孝男(建築研究所)、吉田治典(岡山理科大学):新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、(その5)個別分散型空調システムの使用実態に関する調査、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2413-2416、2011年9月
  - 10) 三木保弘(国土技術政策総合研究所)、吉澤望(東京理科大学)、井上隆(東京理科大学)、宮田征門(建築研究所)、澤地孝男(建築研究所)、平紘一(三菱地所設計):新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、(その6)照明設備における省エネルギー制御手法の効果の実態、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2417-2420、2011年9月
  - 11) 長井達夫(東京理科大学)、川瀬貴晴(千葉大学)、猪岡達夫(中部大学)、永田明寛(首都大学東京)、柘川依士夫(鹿島建設)、赤司泰義(九州大学)、澤地孝男(建築研究所)、宮田征門(建築研究所)、丹羽勝巳(日建総合研究所)、近藤武士(日建総合研究所):新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、(その7)内部発熱の実態、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2421-2424、2011年9月
  - 12) 近藤武士(日建設計総合研究所)、長井達夫(東京理科大学)、川瀬貴晴(千葉大学)、坂本雄三(東京大学大学院)、柘川依士夫(鹿島建設)、佐藤正章(鹿島建設)、丹羽勝巳(日建設計総合研究所)、松縄堅(日建設計総合研究所)、宮田征門(建築研究所)、澤地孝男(建築研究所):新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、(その8)標準室使用条件の設定、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2425-2428、2011年9月
  - 13) 丹羽勝巳(日建設計総合研究所)、近藤武士(日建設計総合研究所)、坂本雄三(東京大学大学院)、川瀬貴晴(千葉大学)、澤地孝男(建築研究所)、宮田征門(建築研究所):新たな省エネ基準策定のための建築設備の使用実態とエネルギー消費実態に関する調査研究、(その9)標準的な年間空調エネルギー消費量の考え方と試算結果、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2429-2432、2011年9月
  - 14) 澤地孝男(建築研究所)、宮田征門(建築研究所)、川瀬貴晴(千葉大学大学院)、坂本雄三(東京大学大学院):業務用建築の年間空調エネルギー消費量簡略計算法の開発、(その1)新たな年間空調エネルギー消費量計算法の枠組みと意義、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2433-2436、2011年9月
  - 15) 猪岡達夫(中部大学)、澤地孝男(建築研究所)、宮田征門(建築研究所)、宮島賢一(建築環境ソリューションズ)、住吉大輔(九州大学大学院)、川瀬貴晴(千葉大学大学院)、坂本雄三(東京大学大学院):業務用建築の年間空調エネルギー消費量簡略計算法の開発、(その2)EDDに準拠した日別熱負荷の算定法、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2437-2440、2011年9月
  - 16) 宮島賢一(建築環境ソリューションズ)、澤地孝男(建築研究所)、猪岡達夫(中部大学)、

- 宮田征門（建築研究所）、川瀬貴晴（千葉大学大学院）、坂本雄三（東京大学大学院）：業務用建築の年間空調エネルギー消費量簡略計算法の開発、（その3）非定常負荷推定式の試算、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2441-2444、2011年9月
- 17) 宮田征門（建築研究所）、澤地孝男（建築研究所）、齋藤正文（タイセイ総合研究所）、梅主洋一郎（CEC システムズ）、川瀬貴晴（千葉大学大学院）、坂本雄三（東京大学大学院）：業務用建築の年間空調エネルギー消費量簡略計算法の開発、（その4）室負荷から空調システムのエネルギー消費量を推定する手法の枠組み、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2445-2448、2011年9月
- 18) 住吉大輔（九州大学大学院）、宮田征門（建築研究所）、澤地孝男（建築研究所）、猪岡達夫（中部大学大学院）、川瀬貴晴（千葉大学大学院）、坂本雄三（東京大学大学院）：業務用建築の年間空調エネルギー消費量簡略計算法の開発、（その5）蓄熱システムの評価法、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p2449-2452、2011年9月
- 19) 阿部 靖則（新菱冷熱工業）、植田 俊克（新菱冷熱工業）、五味 弘（高砂熱学工業）、柴田 克彦（高砂熱学工業）、富田 弘明（三機工業）、鈴木 康司（三機工業）、佐々木洋二（ダイダン）、中村 真（ダイダン）、澤地 孝男（建築研究所）、宮田 征門（建築研究所）：空調システム、給湯システムの各種制御手法におけるエネルギー削減効果の実態調査、（その1）調査の全体概要、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p1399-1402、2012年9月
- 20) 柴田 克彦（高砂熱学工業）、倉田 昌典（高砂熱学工業）、植田 俊克（新菱冷熱工業）、富田 弘明（三機工業）、中村 真（ダイダン）、宮田 征門（建築研究所）、阿部 靖則（新菱冷熱工業）：空調システム、給湯システムの各種制御手法におけるエネルギー削減効果の実態調査、（その2）熱源機器、搬送機器、外気処理システムの制御と給湯システムに係る分類整理、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p1403-1406、2012年9月
- 21) 鈴木康司（三機工業）、富田弘明（三機工業）、川村昌彦（三機工業）、飯嶋和明（三機工業）、植田俊克（新菱冷熱工業）、柴田克彦（高砂熱学工業）、中村真（ダイダン）、宮田征門（建築研究所）、阿部靖則（新菱冷熱工業）：空調システム、給湯システムの各種制御手法におけるエネルギー削減効果の実態調査、（その3）変流量制御に関する実運転データとその評価、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p1407-1410、2012年9月
- 22) 中村 真（ダイダン）、仲井 章一（ダイダン）、西村 英樹（ダイダン）、熊尾 隆丈（ダイダン）、植田 俊克（新菱冷熱工業）、柴田 克彦（高砂熱学工業）、富田 弘明（三機工業）、宮田 征門（建築研究所）、阿部 靖則（新菱冷熱工業）：空調システム、給湯システムの各種制御手法におけるエネルギー削減効果の実態調査、（その4）変風量制御に関する実運転データとその評価、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p1411-1414、2012年9月
- 23) 植田 俊克（新菱冷熱工業）、鈴木 正美（新菱冷熱工業）、前田 幸輝（新菱冷熱工業）、

柴田 克彦（高砂熱学工業）、富田 弘明（三機工業）、中村 真（ダイダン）、宮田 征門（建築研究所）、阿部 靖則（新菱冷熱工業）：空調システム，給湯システムの各種制御手法におけるエネルギー削減効果の実態調査、（その 5）外気処理システムに関する実運転データ、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、p1415-1418、2012 年 9 月

#### **【研究報告書】**

- 1) 平成 21, 22 年度 国土交通省建築基準整備促進事業、調査項目 22「業務用建築物の省エネルギー基準に関する検討」報告書、2011 年 3 月
- 2) 平成 23, 24 年度 国土交通省建築基準整備促進事業 調査項目 36「空調システム等の最適制御による省エネルギー効果に関する実証的評価」報告書、2013 年 3 月

#### **【引用規格】**

- 1) JIS C 4212：2010、高効率低圧三相かご形誘導電動機
- 2) JIS C 8952：2011、太陽電池アレイの表示方法

## 国土技術政策総合研究所資料 No702（建築研究資料 No. 140）からの変更箇所一覧

平成 24 年 12 月 4 日に公開された、国土技術政策総合研究所資料 No702（建築研究資料 No.140）「低炭素建築物認定基準(平成 24 年 12 月公布)等 関係技術資料 一次エネルギー消費量算定プログラムの解説（建築物編）」からの主な変更点を示す。軽微な語句の修正はこの一覧には記載していない。

### 1. 全般的な語句の修正

頁	修正箇所	修正前（誤）	修正後（正）
		平成 11 年基準	旧基準
		平成 24 年基準	平成 25 年基準
		集会場	集会所
		昇降機設備	昇降機

### 2. 設備仕様入力シート of 語句の修正

頁	修正箇所	修正前（誤）	修正後（正）
	（空調）熱源 入力シート	①「主機 定格消費エネルギー [ * / 台 ] 」	①「主機 定格消費エネルギー [kW/台] 」
	（換気）給排 気送風機入力 シート	③「電動機定格消費電力」	③「電動機定格出力」
	（換気）換気 代替空調機入 力シート	④「送風機消費電力」 ⑤「ポンプ消費電力」	④「送風機定格出力」 ⑤「ポンプ定格出力」

### 3. 記載内容の修正・追加

頁	修正箇所	修正前（誤）	修正後（正）
	目次	第 3 編 設備仕様入力システムの作成事例 Chapter 0. モデル建築物の概要	第 3 編 設備仕様入力システムの作成事例 Chapter 0. モデル建物の概要

	目次	(第一編) Chapter 4. 照明設備の入力 1. 照明器具入力シート	(第一編) Chapter 4. 照明設備の入力 1. 照明入力シート
	目次	(第二編) Chapter 1. 共通条件の入力 2. 室用途分類及び標準室使用条件	(第一編) Chapter 1. 共通条件の入力 2. 標準室使用条件及び各室用途の想定
	目次		巻末に 参考文献 を追加
vii	(1). 計算対象とする建築設備の定義	ただし、次の 2. に掲げる室に設置される設備及び 3. に掲げる設備は、一次エネルギー消費量の計算対象とはしない。	ただし、次の(2). に掲げる室に設置される設備及び(3). に掲げる設備は、一次エネルギー消費量の計算対象とはしない。
vii	(2). 計算の対象とならない室の例	物品を生産する室や、機械・設備によりサービス等を生産する室については、	工場等における物品を生産するための室や、機械・設備によりサービス等を生産する室については、
vii	(2). 計算の対象とならない室の例	データセンター（コンピュータやデータ通信のための装置を設置・運用することに特化した建物）における電算機室	データセンター（コンピュータやデータ通信のための装置を設置・運用することに特化した建物又は室）における電算機室
viii	表-a		全設備について、詳細を加筆
p.6	2. 室仕様入力シート	本シートには室の情報を入力するが、どの空間を1つの室とするかには注意が必要である。本シートで入力した室は全設備の計算において共通で利用することになるため、特に次のことに留意して室を区分する必要がある。	本シートには室の情報を入力するが、どの空間を1つの室とするかには注意が必要である。特に次のことに留意して室を区分する必要がある。 (前の段落に同様の説明があるため削除)
p.8	②：建物用途、室用途	・建物用途の選択肢は、「事務所等」「ホテル等」「病院等」「物販店舗等」「学校等」「飲食店等」「集会所等」「工場等」の8用途である。	・建物用途の選択肢は、「事務所等」「ホテル等」「病院等」「物品販売業を営む店舗等（物販店舗等）」「学校等」「飲食店等」「集会所等」「工場等」の8用途である。
p.8	②：建物用途、室用途	なお、標準室使用条件については、「第2編 Chapter 1. 共通条件の入力 3 室用途分類及び標準室使用条件」を参照すること。	なお、標準室使用条件については、「第2編 Chapter 1. 共通条件の入力 3 標準室使用条件及び各室用途の想定」を参照すること。
p.9	②：建物用途、	空調計算対象室にチェックを入れな	空調計算対象室に「■」を入力しな

	室用途	ければ「更衣室又は倉庫」の室用途を選択しても空調のエネルギー消費量は基準値も設計値にもカウントされない	ければ「更衣室又は倉庫」の室用途を選択しても空調のエネルギー消費量は基準値も設計値にもカウントされない
p.19	(2). 空調ゾーン入力シート の入力項目と 入力方法	なお、各項目名の前にある丸数字は <u>図 1-2-2「様式 2-1 (空調)『空調ゾーン入力シート』の様式」</u> の最上部にある丸数字と対応している。	なお、各項目名の前にある丸数字は <u>図 1-2-1「様式 2-1 (空調)『空調ゾーン入力シート』の様式」</u> の最上部にある丸数字と対応している。
p.20	②：空調ゾーン・階、空調ゾーン名	なお、統合可能な室数に制限はない。入力の方法は <u>次の例を参考にすること。</u>	なお、統合可能な室数に制限はない。入力の方法は <u>次頁の「参考」を参照すること。</u>
p.20	③④：空調機群 名称・室負荷処理、 外気負荷処理	<u>直接的な外気を取入れがないゾーン</u> については、外気負荷を処理する空調機群として室負荷を処理する空調機群の名称を入力することとする。	<u>空調機を介さず直接外気がゾーンに供給される場合</u> については、外気負荷を処理する空調機群として室負荷を処理する空調機群の名称を入力することとする。
p.27	表 1-2-2 建材番号 106	建材畳床(K,N形 50mm厚)	建材畳床(K、N形 50mm厚)
p.32	表 1-2-3  ガラス番号 151～166 の ガラス種類	ガラス番号 151～154 高性能熱線反射 (可視光透過率 40%+透明)  ガラス番号 155～158 高性能熱線反射 (可視光透過率 30%+透明)  ガラス番号 159～162 高性能熱線反射 (可視光透過率 20%+透明)  ガラス番号 163～166 高性能熱線反射 (可視光透過率 8%+透明)	ガラス番号 151～154 高性能熱線反射 (可視光透過率 40%) +透明  ガラス番号 155～158 高性能熱線反射 (可視光透過率 30%) +透明  ガラス番号 159～162 高性能熱線反射 (可視光透過率 20%) +透明  ガラス番号 163～166 高性能熱線反射 (可視光透過率 8%) +透明
p.34	表 1-2-3  ガラス番号 351～366 の ガラス種類	ガラス番号 351～354 高性能熱線反射 (可視光透過率 40%+透明)  ガラス番号 355～358 高性能熱線反射 (可視光透過率 30%+透明)  ガラス番号 359～362 高性能熱線反射 (可視光透過率 20%+透明)	ガラス番号 351～354 高性能熱線反射 (可視光透過率 40%) +透明  ガラス番号 355～358 高性能熱線反射 (可視光透過率 30%) +透明  ガラス番号 359～362 高性能熱線反射 (可視光透過率 20%) +透明

		ガラス番号 363～366 高性能熱線反射（可視光透過率 8%+透明）	ガラス番号 363～366 高性能熱線反射（可視光透過率 8%）+透明																																								
p.46	⑪：熱源主機定格消費エネルギー	熱源機のエネルギー源が「電力」の場合は [kW/台] で、「ガス」の場合は [Nm <sup>3</sup> /h 台] で、「油」の場合は [L/h 台] で、「温水」や「蒸気」の場合は [kJ/h 台] で入力する。	熱源機のエネルギー源が「電力」の場合は定格消費電力 [kW/台] を、「ガス」及び「油」の場合は燃料消費量（一次エネルギー換算） [kW/台] を入力する。																																								
p.46	⑫：熱源補機定格消費電力	・ 熱源補機の消費電力は機器負荷率や外気温度によって変化しないものとし、定格消費電力に運転時間を乗じた値が熱源補機の消費電力量となる。	・ 熱源補機の消費電力は機器負荷率に比例して変化する（但し、機器負荷率が 30%以下は一定）としている。																																								
p.47	⑭：冷却塔定格冷却能力	・ 冷却塔定格能力とは、熱源機が定格条件で運転している時の冷却塔の必要能力とする。	・ （削除）																																								
p.47	⑭：冷却塔定格冷却能力	・	・ 1 台の冷却塔に複数の熱源機器が接続されている場合は、次頁の入力例に示すように、その冷却塔の定格冷却能力を各熱源機器の能力で按分した値を入力する。																																								
p.50	図 1-2-15	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>④ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> </tbody> </table>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	④ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10.5			10	10.5			10	10.5			10	10.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>④ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>（解説）複数台のポンプで 1 つのポンプ群を構成する場合の冷房時・暖房時温度差は、一番上に入力するポンプのみに値を入力すればよい。</p>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	④ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10.5												
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	④ 暖房時温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10.5																																								
		10	10.5																																								
		10	10.5																																								
		10	10.5																																								
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	④ 暖房時温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10.5																																								
p.50	③：冷房時温度差・暖房時温度差	・ 温度差が異なる機器がある場合は、流量の最も大きいポンプの温度差を入力する。	・ 同じポンプ群の中に温度差が異なるポンプがある場合は、流量の最も大きいポンプの温度差を入力する。																																								
p.51	⑧：流量制御方式	・ 各ポンプの流量制御方式を表 1-2-9 「流量制御一覧」の選択肢から選択	・ 各ポンプの流量制御方式を表 1-2-8 「流量制御一覧」の選択肢から選択																																								



		し、	し、
p.51	表 1-2-9 (修正後は表 1-2-8)	<u>表 1-2-9</u> 流量制御一覧	<u>表 1-2-8</u> 流量制御一覧
p.55	③: 空調機タイプ	・ <u>表 1-2-10</u> 「空調機タイプ一覧」の選択肢から選択し、	・ <u>表 1-2-9</u> 「空調機タイプ一覧」の選択肢から選択し、
p.55	表 1-2-10 (修正後は表 1-2-9)	<u>表 1-2-10</u> 空調機タイプ一覧	<u>表 1-2-9</u> 空調機タイプ一覧
p.56	⑪: 風量制御方式	・ 空調機の風量制御方式を <u>表 1-2-11</u> 「風量制御方式」の選択肢から選択し、	・ 空調機の風量制御方式を <u>表 1-2-10</u> 「風量制御方式」の選択肢から選択し、
p.56	表 1-2-11 (修正後は表 1-2-10)	<u>表 1-2-11</u> 風量制御方式	<u>表 1-2-10</u> 風量制御方式
p.60	3 行目	給排気送風機の定格風量、定格 <u>消費電力</u> 、制御方式等に関する情報を入力する。	給排気送風機の定格風量、定格 <u>出力</u> 、制御方式等に関する情報を入力する。
p.61	③: 電動機定格消費電力	③: 電動機定格 <u>消費電力</u> 送風機の定格 <u>消費電力</u> を数値で入力する。単位は kW である。	③: 電動機定格 <u>出力</u> 送風機の定格 <u>出力</u> を数値で入力する。単位は kW である。
p.63	3 行目	・ 換気設備の代わりに設置された機器発熱負荷処理の空調機 (換気代替空調機) の冷却能力、 <u>消費電力</u> 等を入力する。	・ 換気設備の代わりに設置された機器発熱負荷処理の空調機 (換気代替空調機) の冷却能力、 <u>定格出力</u> 等を入力する。
p.64	④: 送風機消費電力	④: 送風機 <u>消費電力</u> 空調機の送風機 (パッケージ型空調機の場合は室内機の送風機) の <u>消費電力</u> を数値で入力する。単位は kW である。	④: 送風機 <u>定格出力</u> 空調機の送風機 (パッケージ型空調機の場合は室内機の送風機) の <u>電動機定格出力</u> を数値で入力する。単位は kW である。
p.64	⑤: ポンプ消費電力	⑤: ポンプ <u>消費電力</u> ・ 中央熱源方式の場合は、二次冷水ポンプの消費電力 (電動機出力) を数値で入力する。単位は kW である。	⑤: ポンプ <u>定格出力</u> 中央熱源方式の場合は、二次冷水ポンプの電動機定格出力を数値で入力する。単位は kW である。
p.65	タイトル	1. 照明 <u>器具</u> 入力シート	1. 照明入力シート
p.66	④: 室指数	・ 室指数は次の式で算出し、数値で入力する (小数第 2 位を四捨五入し小数第 1 位までの入力とする)。 ・ <u>なお</u> 、作業面の高さは、一般事	・ 室指数は次の式で算出し、数値で入力する (小数第 2 位を四捨五入し小数第 1 位までの入力とする)。 ・ <u>作業面</u> の高さは、室用途に応じて

		<u>務室では床上 0.8m、廊下では床面 0m とする。</u>	<u>適切な値を設定して良い。なお、②③で間口と奥行を入力した場合は一次エネルギー消費量算定用 WEB プログラムの中で室指数を自動計算するが、その際の作業面高さは室用途によらず一律 0m としている。</u>
p.67	⑦：定格消費電力	・消費電力が不明の場合は、 <u>(社) 日本照明器具工業会</u> の「ガイド 114-2005 照明エネルギー消費係数算出のための照明器具の消費電力の参考値より」該当する機器の値を入力すること。	・消費電力が不明の場合は、 <u>(一社) 日本照明工業会</u> の「ガイド 114 照明エネルギー消費係数算出のための照明器具の消費電力の参考値より」該当する機器の値を入力すること。
p.72	③：節湯器具種類	③：節湯器具種類	③：節湯器具
p.72	表 1-5-1 自動給湯栓		公衆浴場等で使用される自閉式水栓（一定の時間あるいは量を吐水した後に止水する水栓）
p.72	表 1-5-1 節水型シャワー		・（補足）吐水切替えが可能な場合については、主たる使用モードで条件を満たしていれば良いとする。
p.75	2 行目		・1つの給湯系統の中に複数の給湯機器が接続されており、これらが連携して動く場合は、これらの給湯機器の定格加熱能力の総和を本欄に入力する。
p.75	④熱源効率（一次エネルギー換算）		・1つの給湯系統の中に複数の給湯機器が接続されており、これらが連携して動く場合は、これらの給湯機器の熱源効率を各熱源機器の定格加熱能力で重み付けして平均した値を本欄に入力する。
p.76	⑦⑧⑨：太陽熱利用（有効集熱面積、集熱面の方位角、集熱面の傾斜角）		・有効集熱面積は数値で入力する。単位は $m^2$ である。

p.77	①：階・室名・建物用途・室用途	図 1-1-2 「様式 1 (共通条件)『室仕様入力シート』の様式」で入力した室の中で昇降機を利用する人の主たる居室のうち、一番上にある階の室名等を転記する。	図 1-1-2 「様式 1 (共通条件)『室仕様入力シート』の様式」で入力した室の中から、当該昇降機が主にサービスを提供する室(昇降機を利用する人の主たる居室)を入力する。主にサービスを提供する室が複数あり、それらの室の用途が異なる場合は、床面積の合計が最も大きい室用途に属する代表室を主にサービスを提供する室とする。
p.77	①：階・室名・建物用途・室用途	・ここで入力した室により、昇降機の運転時間が定まる。	・ここで入力した室の用途により、昇降機の運転時間が定まる。
p.78	⑥：輸送能力係数		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主たる建物用途が事務所等、ホテル等の場合において、昇降機の台数が 2 台以下の場合、もしくはバックヤードに設置される場合は、輸送能力係数は 1 とすることができるものとする。</li> <li>・主たる建物用途が事務所等、ホテル等以外の場合は、輸送能力係数は台数に依らず 1 とすることができるものとする。</li> <li>・事務所、ホテルにおいて、計画輸送能力が標準輸送能力を超えるときにおいて、(計画台数-1)の台数で標準輸送能力を下回る場合は、輸送能力係数は 1 とすることができるものとする。</li> </ul>
p.80	表 1-7-2	表 1-7-2 太陽電池の種類	表 1-7-2 アレイ設置方式
p.82	「④：発電効率」から「⑨：温水吸収冷凍機または排熱投入型冷温水機の成績係数」		冗長な説明を削除
p.86～94	各ページ冒頭		表 2-1-1 省エネルギー基準におけ

			る地域区分（続き）
p.86～94	表 2-1-1		平成 25 年基準の告示に合わせて修正
p.99	タイトル	2. 室用途分類及び標準室使用条件	2. 標準室使用条件及び各室用途の想定 本節では、各室用途の標準室使用条件の詳細及び各室用途の使用時間や負荷等の想定を示す
p.99	最終行	なお、空調の発停や内部発熱量の変動については、1 時間ごとの時刻変動を 365 日分設定している。	なお、空調の発停や内部発熱量の変動については、 <u>室用途別に</u> 1 時間ごとの時刻変動を 365 日分設定している。詳細は「平成 25 年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説 I 非住宅建築物」の「第五部資料集 第二章室用途および標準室使用条件」で解説されている。
p.109	2 行目	各室用途の使用時間や負荷等の想定を表 2-1-11「各室用途の想定と図面上の室名との対応」に示す。	各室用途の使用時間や負荷等の想定を表 2-1-11～18「各室用途の想定と図面上の室名との対応」に示す。
p.109 ～ 117	表 2-1-11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記載内容を修正</li> <li>・ 表のタイトルを追加</li> </ul> 表 2-1-11 各室用途の想定と図面上の室名との対応（事務所等） 表 2-1-12 各室用途の想定と図面上の室名との対応（ホテル等） 表 2-1-13 各室用途の想定と図面上の室名との対応（病院等） 表 2-1-14 各室用途の想定と図面上の室名との対応（物販店舗等） 表 2-1-15 各室用途の想定と図面上の室名との対応（学校等） 表 2-1-16 各室用途の想定と図面上の室名との対応（飲食店等） 表 2-1-17 各室用途の想定と図面上の室名との対応（集会所等） 表 2-1-18 各室用途の想定と図面上の室名との対応（工場等）
p.115	表 2-1-17		室用途「公式競技用スケート場」「公

			式競技用体育館」「一般競技用スケート場」「一般競技用体育館」「レクレーション用スケート場」「レクレーション用体育館」の図面上の室名の例から「シャワー室、更衣室」を削除。																																								
p.125	3. 外皮面積の算出方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>外皮面積は、<u>外壁長さ</u>を壁芯で測り、<u>外壁長さ</u>と階高を乗じて算出する。外壁面積は外壁面積と窓面積の和とする。</li> <li>窓面積は、サッシ寸法を測って算出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外皮面積は、<u>外壁幅</u>を壁芯で測り、<u>外壁幅</u>と階高を乗じて算出する。</li> <li>窓面積は、サッシ寸法を測って算出する。</li> <li>外壁面積は、<u>外皮面積から窓面積を差し引いた値と定義するが、外壁面積を算出する必要はない。外壁面積は「様式 2-4 (空調)『外皮仕様入力シート』」に<input type="text"/>する外皮面積及び窓面積から、プログラム内で自動的に算出される。</u></li> </ul>																																								
p.137	図 2-2-28	<table border="1"> <thead> <tr> <th>熱源機種 (選択)</th> <th>⑦ 運転順位 (選択)</th> <th>⑧ 台数 [台]</th> <th>⑨ 制御 方式 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プリンターボ冷凍機(蓄熱時)</td> <td>1番目</td> <td>1</td> <td>-5</td> </tr> <tr> <td>熱交換器</td> <td>1番目</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ターボ冷凍機</td> <td>2番目</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>プリンターボ冷凍機(追掛時)</td> <td>3番目</td> <td>1</td> <td>-2</td> </tr> </tbody> </table>	熱源機種 (選択)	⑦ 運転順位 (選択)	⑧ 台数 [台]	⑨ 制御 方式 [°C]	プリンターボ冷凍機(蓄熱時)	1番目	1	-5	熱交換器	1番目		7	ターボ冷凍機	2番目	1	7	プリンターボ冷凍機(追掛時)	3番目	1	-2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>熱源機種 (選択)</th> <th>⑦ 運転順位 (選択)</th> <th>⑧ 台数 [台]</th> <th>⑨ 制御 方式 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プリンターボ冷凍機(蓄熱時)</td> <td>1番目</td> <td>1</td> <td>-5</td> </tr> <tr> <td>熱交換器</td> <td>1番目</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ターボ冷凍機</td> <td>2番目</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>プリンターボ冷凍機(追掛時)</td> <td>3番目</td> <td>1</td> <td>-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>熱交換器の台数を入力</p>	熱源機種 (選択)	⑦ 運転順位 (選択)	⑧ 台数 [台]	⑨ 制御 方式 [°C]	プリンターボ冷凍機(蓄熱時)	1番目	1	-5	熱交換器	1番目	1	7	ターボ冷凍機	2番目	1	7	プリンターボ冷凍機(追掛時)	3番目	1	-2
熱源機種 (選択)	⑦ 運転順位 (選択)	⑧ 台数 [台]	⑨ 制御 方式 [°C]																																								
プリンターボ冷凍機(蓄熱時)	1番目	1	-5																																								
熱交換器	1番目		7																																								
ターボ冷凍機	2番目	1	7																																								
プリンターボ冷凍機(追掛時)	3番目	1	-2																																								
熱源機種 (選択)	⑦ 運転順位 (選択)	⑧ 台数 [台]	⑨ 制御 方式 [°C]																																								
プリンターボ冷凍機(蓄熱時)	1番目	1	-5																																								
熱交換器	1番目	1	7																																								
ターボ冷凍機	2番目	1	7																																								
プリンターボ冷凍機(追掛時)	3番目	1	-2																																								
p.139	図 2-2-30	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時 温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時 温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時 温度差 [°C]	③ 暖房時 温度差 [°C]	PCH2	有	10	10			10	10			10	10	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時 温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時 温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ (解説) 複数台のポンプで1つのポンプ群を構成する場合の冷房時・暖房時温度差は、一番上に入力するポンプのみに値を入力す</p>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時 温度差 [°C]	③ 暖房時 温度差 [°C]	PCH2	有	10	10																
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時 温度差 [°C]	③ 暖房時 温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10																																								
		10	10																																								
		10	10																																								
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時 温度差 [°C]	③ 暖房時 温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10																																								

			ればよい。																																
p.139	下から 4 行目	・二次ポンプ群名称は一番上の欄のみに入力し、他は空欄とする。	・二次ポンプ群名称、 <u>台数制御の有無</u> 、 <u>冷房時・暖房時温度差</u> は一番上の欄のみに入力し、他は空欄とする。																																
p.141	図 2-2-34	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10			10	10			10	10	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(解説) 複数台のポンプで 1 つのポンプ群を構成する場合の冷房時・暖房時温度差は、一番上に入力するポンプのみに値を入力すればよい。</p>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10								
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																
PCH2	有	10	10																																
		10	10																																
		10	10																																
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																
PCH2	有	10	10																																
p.142	図 2-2-36	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10			10	10	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(解説) 複数台のポンプで 1 つのポンプ群を構成する場合の冷房時・暖房時温度差は、一番上に入力するポンプのみに値を入力すればよい。</p>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10												
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																
PCH2	有	10	10																																
		10	10																																
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																
PCH2	有	10	10																																
p.142	下から 4 行目	・二次ポンプ群名称は一番上の欄のみに入力し、他は空欄とする。	・二次ポンプ群名称、 <u>台数制御の有無</u> 、 <u>冷房時・暖房時温度差</u> は一番上の欄のみに入力し、他は空欄とする。																																
p.146	図 2-2-41	FCU1 FCU2 FCU3	図中のファンコイルユニットの名称を変更 FCU1-1、FCU1-2 FCU2-1、FCU2-2 FCU3-1、FCU3-2																																

p.147	☒ 2-2-43	<table border="1"> <thead> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> <tr> <th>空調機群名称</th> <th>台数</th> <th>空調機タイプ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FCU1</td> <td>1</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>FCU2</td> <td>1</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>FCU3</td> <td>1</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>AHU1</td> <td>1</td> <td>空調機</td> </tr> </tbody> </table>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	FCU1	1	FCU	FCU2	1	FCU	FCU3	1	FCU	AHU1	1	空調機	<table border="1"> <thead> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> <tr> <th>空調機群名称</th> <th>台数</th> <th>空調機タイプ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FCU1</td> <td>2</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>FCU2</td> <td>2</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>FCU3</td> <td>2</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>AHU1</td> <td>1</td> <td>空調機</td> </tr> </tbody> </table> <p>☒ 2-2-41 と合わせて、ファンコイルユニットが2台設置されているとした。</p>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	FCU1	2	FCU	FCU2	2	FCU	FCU3	2	FCU	AHU1	1	空調機
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
FCU1	1	FCU																																											
FCU2	1	FCU																																											
FCU3	1	FCU																																											
AHU1	1	空調機																																											
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
FCU1	2	FCU																																											
FCU2	2	FCU																																											
FCU3	2	FCU																																											
AHU1	1	空調機																																											
p.150	☒ 2-2-47	FCU1	<p>☒中のファンコイルユニットの名称を変更</p> <p>※ FCU1-1、FCU1-2</p>																																										
p.151	☒ 2-2-49	<table border="1"> <thead> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> <tr> <th>空調機群名称</th> <th>台数</th> <th>空調機タイプ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Iu1</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td>FCU1</td> <td>1</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>AHU1</td> <td>1</td> <td>空調機</td> </tr> </tbody> </table>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	Iu1	1	室内機	FCU1	1	FCU	AHU1	1	空調機	<table border="1"> <thead> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> <tr> <th>空調機群名称</th> <th>台数</th> <th>空調機タイプ</th> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Iu1</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td>FCU1</td> <td>2</td> <td>FCU</td> </tr> <tr> <td>AHU1</td> <td>1</td> <td>空調機</td> </tr> </tbody> </table> <p>☒ 2-2-47 と合わせて、ファンコイルユニットが2台設置されているとした。</p>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	Iu1	1	室内機	FCU1	2	FCU	AHU1	1	空調機						
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
Iu1	1	室内機																																											
FCU1	1	FCU																																											
AHU1	1	空調機																																											
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
Iu1	1	室内機																																											
FCU1	2	FCU																																											
AHU1	1	空調機																																											
p.152	■様式 2-7 (空調) 『空調機入力シート』の入力方法	<p>・ FCU1×1 台、FCU2×2 台をまとめて1つの空調機群 (FCU) とし、能力や風量、消費電力を FCU1、FCU2 ごとにそれぞれ入力する。FCU2 の台数には「2」を入力する。</p>	<p>・ FCU1×1 台、FCU2×2 台をまとめて1つの空調機群 (FCU) と定義する。</p> <p>・ <u>空調機群名称は一番上の欄のみに入力し、その他は空欄とする。</u></p> <p>・ 能力や風量、消費電力を FCU1、FCU2 ごとにそれぞれ入力する。FCU2 の台数には「2」を入力する。</p>																																										

p.154	図 2-2-54	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">①</th> <th style="width: 33%;">②</th> <th style="width: 33%;">③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調機群名称</td> <td>台数</td> <td>空調機タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> <tr> <td>IuA</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5</td> <td>送風機</td> </tr> <tr> <td>IuA</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5</td> <td>送風機</td> </tr> </tbody> </table>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	IuA	1	室内機		0.5	送風機	IuA	1	室内機		0.5	送風機	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">①</th> <th style="width: 33%;">②</th> <th style="width: 33%;">③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調機群名称</td> <td>台数</td> <td>空調機タイプ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[台]</td> <td>(選択)</td> </tr> <tr> <td>IuA</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5</td> <td>送風機</td> </tr> <tr> <td>IuB</td> <td>1</td> <td>室内機</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5</td> <td>送風機</td> </tr> </tbody> </table>	①	②	③	空調機群名称	台数	空調機タイプ		[台]	(選択)	IuA	1	室内機		0.5	送風機	IuB	1	室内機		0.5	送風機
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
IuA	1	室内機																																											
	0.5	送風機																																											
IuA	1	室内機																																											
	0.5	送風機																																											
①	②	③																																											
空調機群名称	台数	空調機タイプ																																											
	[台]	(選択)																																											
IuA	1	室内機																																											
	0.5	送風機																																											
IuB	1	室内機																																											
	0.5	送風機																																											
p.154	■様式 2-7 (空調)『空調機入力シート』の入力方法	<p>・空調機群 IuA の空調機仕様は、室内機 Iu1～Iu4 の合計値を入力する。空調機群 IuB も同様に入力する。</p>	<p>・空調機の仕様は、機器毎に行を分けて入力することが原則であるが、1つの室に複数台設置されることが一般的であるパッケージ型空調機の室内機については、全室内機の合計値を入力しても良い。</p>																																										
p.155	■様式 2-7 (空調)『空調機入力シート』の入力方法		<p>・空調機群名称は、一番上の欄に「ACP-1-1」と入力し、その他は空欄とする。</p>																																										
p.160	■様式 2-7 (空調)『空調機入力シート』の入力方法	<p>・空調機 AHU1 とは行を分けて、仕様を入力する。空調機タイプは「送風機」とし、台数は 4 台として、1 台あたりの仕様を入力する。</p>	<p>・空気循環用送風機の仕様は、空調機 AHU1 の 1 行下に入力する。空調機群名称は空欄、空調機タイプは「送風機」とし、台数は 4 台として、1 台あたりの仕様を入力する。</p>																																										
p.161	■様式 2-7 (空調)『空調機入力シート』の入力方法	<p>・空調機 AHU1 とは行を分けて、仕様を入力する。空調機タイプは「送風機」とし、台数は 2 台として、1 台あたりの仕様を入力する。</p>	<p>・エアカーテンの仕様は、空調機 AHU1 の 1 行下に入力する。空調機群名称は空欄、空調機タイプは「送風機」とし、台数は 4 台として、1 台あたりの仕様を入力する。</p>																																										
p.162	■様式 2-7 (空調)『空調機入力シート』の入力方法	<p>・空調機 AHU1 とは行を分けて、仕様を入力する。空調機タイプは「送風機」とし、台数は 1 台とする。</p>	<p>・エアフローウィンドウ用の排気ファンの仕様は、空調機 AHU1 の 1 行下に入力する。空調機群名称は空欄、空調機タイプは「送風機」とし、台数は 1 台として仕様を入力する。</p>																																										
p.163	1. 計算対象と	1) 廃熱、除湿、脱臭を目的とした送	1) 主として排熱、除湿、脱臭を目的																																										



	する換気設備	風機	とした送風機
p.163	1. 計算対象とする換気設備	・ただし、 <u>廃熱</u> 、除湿、脱臭を目的とした機械換気設備がある <u>空調対象室</u> （例えばトイレや喫煙室など）については、 <u>新鮮外気分は空調設備のエネルギー消費量に、廃熱などの分は換気エネルギー消費量に計上する。</u>	・ただし、 <u>排熱</u> 、除湿、脱臭を主目的とした機械換気設備がある <u>室</u> が空調されている場合は（例えばトイレや喫煙室などが空調されている場合）、主として新鮮外気導入のために使用される送風機の動力は空調設備のエネルギー消費量に、主として廃熱などのために使用される送風機の動力は換気エネルギー消費量に計上する。
p.163	1. 計算対象とする換気設備	6) <u>自然換気</u> を行う場合は、その分選定された換気設備の容量が小さくなっていると想定されるため、何も補正を行わず、選定された機器の消費電力を用いて計算する。(基準値は自然換気なしを想定した消費電力であるため、これと設計値との差が自然換気による省エネルギー量である)	6) <u>換気の一部</u> を自然通風により行う場合は、その分選定された換気設備の容量が小さくなっていると想定されるため、何も補正を行わず、選定された機器の消費電力を用いて計算する。(基準値は自然通風なしを想定した消費電力であるため、これと設計値との差が自然通風による省エネルギー量である)
p.163	1. 計算対象とする換気設備	7) 空気の <u>拡散</u> を促進するために給排気設備とは別に空気循環用送風機設備を設ける時は、 <u>空気循環用送風機設備は空調設備とし、空調設備の送風機動力として計上する。</u>	7) 空気の <u>移動</u> を促進するために給排気設備とは別に空気循環用送風機設備を設ける時は、 <u>その設備が設置される室が空調対象室であれば、空気循環用送風機設備は空調設備とみなし、空調設備の送風機動力として計上する。非空調室であれば、空気循環用送風機設備は機械換気設備とみなし、換気設備の送風機動力として計上する。</u>
p.166	■様式 3-2. (換気)『給排気送風機入力シート』の入力方法	給気送風機、排気送風機それぞれに定格風量と消費電力を入力し、送風量制御には「温度制御」と文字列で入力する。	給気送風機、排気送風機それぞれに定格風量と定格出力を入力し、送風量制御には「温度制御」と文字列で入力する。
p.168	■様式 3-1. (換気)『換気対象室入力シート』	・ 厨房用空調機 OAC-9-1 および AHU-9-1 の送風機および排気送風機の定格風量と消費電力を	・ 厨房用空調機 OAC-9-1 および AHU-9-1 の送風機および排気送風機の定格風量と定格出力を

	と様式 3-2. (換気)『給排気送風機入力シート』の入力方法	入力する。	入力する。
p.170	■様式 3-1. (換気)『換気対象室入力シート』と様式 3-3. (換気)『換気代替空調機入力シート』の入力方法	・ 送風機消費電力は、換気代替空調機の送風機 (パッケージ型空調機の室内機送風機) の消費電力を入力する。	・ 送風機定格出力は、換気代替空調機の送風機 (パッケージ型空調機の室内機送風機) の電動機定格出力を入力する。
p.170	(2). 換気代替空調機の入力例 2	・ 電気室に換気代替空調機 (空調機: 必要冷却能力 10kW、送風機消費電力 1.5kW) が設置されており、	・ 電気室に換気代替空調機 (空調機: 必要冷却能力 10kW、送風機定格出力 1.5kW) が設置されており、
p.171	(2). 換気代替空調機の入力例 2	熱源機 (冷凍機: 冷却能力 100kW、消費電力 25kW)、冷水一次ポンプ (消費電力 1.5kW)、冷水二次ポンプ (消費電力 2.2kW) が設置されているとする。	熱源機 (冷凍機: 冷却能力 100kW、消費電力 25kW)、冷水一次ポンプ (定格出力 1.5kW)、冷水二次ポンプ (定格出力 2.2kW) が設置されているとする。
p.171	■様式 3-3. (換気)『換気代替空調機入力シート』の入力方法	・ 送風機消費電力には、電気室の空調機の給気送風機の消費電力を入力する。 ポンプ消費電力は、冷水二次ポンプの消費電力を各空調機の冷却能力で按分した値を入力する。	・ 送風機定格出力には、電気室の空調機の給気送風機の電動機出力を入力する。 ポンプ定格出力は、冷水二次ポンプの電動機出力を各空調機の冷却能力で按分した値を入力する。
p.174	1. 計算対象とする照明設備	・ ◆常時点灯され明視性を確保する場合の階段誘導灯などを含む。	・ ◆常時点灯され明視性を確保する場合の階段通路誘導灯などを含む。
p.174	1. 計算対象とする照明設備	3) 演出性確保のための照明設備 4) ディスプレイ灯、シャンデリア、 <u>広告灯など</u> 5) 明視性確保のための照明設備のうち、以下のもの	3) 演出性確保のための照明設備 (シャンデリア、 <u>広告塔など</u> ) 4) 明視性確保のための照明設備のうち、以下のもの
p.174	2. 照明器具の消費電力の参考値	(社) 日本照明器具工業会	(一社) 日本照明工業会

p.174	2. 照明器具の消費電力の参考値	また、 <u>ガイド 114-2005</u> に掲載されていない器具や特殊な器具については、	また、 <u>ガイド 114</u> に掲載されていない器具や特殊な器具については、																																								
p.175	3. タスク・アンビエント照明システムの入力事例	様式 4. (照明)『照明入力シート』の入力例を図 2-5-2「タスク・アンビエント照明の入力例」に示す。	様式 4. (照明)『照明入力シート』の入力例を図 2-4-2「タスク・アンビエント照明の入力例」に示す。																																								
p.177	1. 給湯対象室の考え方	なお、「給湯計算対象室」の選択にあたっては、 <u>以下</u> の場合のように建物用途のみから室用途を選択するのではなく、当該室の給湯使用量、給湯使用時間、給湯使用者数等を考慮して室用途を選択する必要がある。	なお、「給湯計算対象室」の選択にあたっては、 <u>次</u> の場合のように建物用途のみから室用途を選択するのではなく、当該室の給湯使用量、給湯使用時間、給湯使用者数等を考慮して室用途を選択しても良い。																																								
p.177	1. 給湯対象室の考え方	「給湯計算対象室」ごとの標準室使用条件（給湯使用量、給湯使用時間等）は、「第 2 編 設備仕様入力シート作成方法の詳細解説 Chapter 1. 共通条件の入力 3 室用途分類及び標準室使用条件」の表 2-1-2 標準室使用条件一覧（事務所等）～表 2-1-110 標準室使用条件一覧（工場等）を参照する。	「給湯計算対象室」ごとの標準室使用条件（給湯使用量、給湯使用時間等）は、「第 2 編 設備仕様入力シート作成方法の詳細解説 Chapter 1. 共通条件の入力 3 標準室使用条件及び各室用途の想定」の表 2-1-2 標準室使用条件一覧（事務所等）～表 2-1-10 標準室使用条件一覧（工場等）を参照する。																																								
p.181	3) 小規模事務所ビルを対象とした輸送能力係数 M の簡易算出法	・建物用途が事務所等であり、	・ <u>主たる</u> 建物用途が事務所等であり、																																								
p.240	4 行目		・OA (1.6m <sup>2</sup> ) は、計算対象とする設備が存在しないため、入力しない。																																								
p.266	図 3-2-21	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> </tbody> </table>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10.5			10	10.5			10	10.5			10	10.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>① 二次ポンプ群名称</th> <th>② 台数制御の有無 (選択)</th> <th>③ 冷房時温度差 [°C]</th> <th>③ 暖房時温度差 [°C]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCH2</td> <td>有</td> <td>10</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(解説) 複数台のポンプで 1 つのポンプ群を構</p>	① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]	PCH2	有	10	10.5												
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10.5																																								
		10	10.5																																								
		10	10.5																																								
		10	10.5																																								
① 二次ポンプ群名称	② 台数制御の有無 (選択)	③ 冷房時温度差 [°C]	③ 暖房時温度差 [°C]																																								
PCH2	有	10	10.5																																								

			成する場合の冷房時・暖房時温度差は、一番上 に <input type="text"/> するポンプのみに値を <input type="text"/> すればよい。
p.267	図 3-2-23	図 3-2-23 空調設備自動制御フロー 図 (1) (図面-空-18、 <u>二次ポンプ部 分を抜粋</u> )	図 3-2-23 空調設備自動制御フロー 図 (1) (図面-空-18)
p.279	①空調機群名 称	・個別の全熱交換機は空調機と分け て <input type="text"/> し、また、書庫と更衣室の排 気送風機 (FE-ST2-BF、FE-LC-BF) は空調機群の中に含め、空調機と分 けて仕様を <input type="text"/> した。	・中央監視室、警備員室、清掃員控 室の全熱交換器 (HEU-CN-BF、 HEU-KB-1F、HEU-CL-BF) 及び書 庫と更衣室の排気送風機 (FE-ST2-BF、FE-LC-BF) は各室 の室内機及びファンコイルユニット と連動して動くため、同じ空調機群 であるとした。
p.279	⑮⑯⑰⑱⑲:全 熱交換器の有 無・全熱交換器 定格風量・定格 全熱交換効 率・バイパス制 御の有無・ロー ター消費電力	・B1 清掃員控室と中央監視室に設置 されている全熱交換器では、有無は 「有」とし、全熱交換器の定格風量 には給気送風機定格風量に <input type="text"/> した 風量を転記した。 <u>また</u> 定格全熱交換 効率は図 3-2-31「空調設備機器リス ト (6)」の私市を <input type="text"/> した。 <u>さらに</u> 、 本例では熱交換と換気運転の切替制 御 (バイパス制御) は自動切替型で あり「有」と <input type="text"/> した (図 3-2-35「空 調設備自動制御フロー図 (6) 参照」)。 <u>なお</u> 、本例で全熱交換器の消費電力 は、ローターが静止型であり電力消 費はないため空欄とした。	・ <u>全熱交換器が設置されるため</u> 、有 無は「有」とし、全熱交換器の定格 風量には給気送風機定格風量に <input type="text"/> した 風量を転記した。 ・定格全熱交換効率は図 3-2-31「空 調設備機器リスト (6)」の私市を <input type="text"/> した。 ・ <u>この例では熱交換と換気運転の切 替制御 (バイパス制御) は自動切替 型であるため</u> 、バイパス制御の有無 は「有」と <input type="text"/> した (図 3-2-35「空 調設備自動制御フロー図 (6) 参照」)。 ・この例で全熱交換器ローターは静 止型であり電力消費はないため、 <u>ロー ター消費電力は空欄とした</u> 。
p.287	図 3-3-10	図 3-3-10 空調設備機器リスト (2) (図面-空-3、 <u>厨房の外調機を抜粋</u> )	図 3-3-10 空調設備機器リスト (2) (図面-空-3)
p.288	図 3-3-11	図 3-3-11 空調設備機器リスト (3) (図面-空-4、 <u>厨房のパッケージ型空 調機部分を抜粋</u> )	図 3-3-11 空調設備機器リスト (3) (図面-空-4)
p.295	図 3-4-1 ⑫昼光連動調 光制御	<u>両側採光</u> かつブラインド自動制御な し	<u>片側採光</u> かつブラインド自動制御な し
p.301	図 3-5-4	図 3-5-4 衛生設備配管系統図 (図面 -衛-2: <u>給湯機器部分を抜粋</u> )	図 3-5-4 衛生設備配管系統図 (図面 -衛-2)

p.305	図 3-5-8	図 3-5-8 衛生設備給湯配管詳細図 (図面-衛-3、図面-衛-4)	図 3-5-8 衛生設備給湯配管詳細図 (図面-衛-3、図面-衛-4 より抜粋)
p.333	②～③：定格風量、電動機定格消費電力	②～③：定格風量、電動機定格消費電力 一般的には設備図面、機器リスト等を確認し、定格風量、電動機定格消費電力を入力する。	②～③：定格風量、電動機定格出力 一般的には設備図面、機器リスト等を確認し、定格風量、電動機定格出力を入力する。
p.339	⑥：輸送能力係数	輸送能力係数を数値で入力した。	輸送能力係数を数値で入力する。本例では「1」とした。

以 上

